

製品名 ルーフプライマーEP

AGCコーテック株式会社

| | | | | | |
|--|--|-------------------------|-------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 系統 | エポキシ樹脂系塗料 | | | | |
| 特徴 | 1. 優れた密着性に優れています。 2. 下地に素早く浸透し、下地からアク(アルカリ)を止めます。 3. 作業性が優れています。 4. 耐薬品性、耐水性、耐溶剤性に優れています。 | | | | |
| 用途 | 無機質系屋根材用下塗(新生スレート瓦、セメントスレート瓦、モニエル瓦等) | | | | |
| 荷姿 | 15 kgセット (主剤: 12 kg 硬化剤: 3 kg) | | | | |
| 色相 | 主剤:無色透明 硬化剤:淡黄色透明 | | | | |
| 組成 適用法令 | 主剤 | 樹脂ワニス | 26 | 消防法 危険物区分 | 第4類第1石油類(非水溶性) 危険等級II |
| | | 溶剤 | 74 | | |
| | | 計 | 100 | | |
| | 硬化剤 | 樹脂 溶剤 | 40 60 | 消防法 危険物区分 | 第4類第1石油類(非水溶性) 危険等級II |
| | | 計 | 100 | | |
| | 塗料性状 | | 粘度(秒) | | 比重 |
| | 主剤 | 9 | | 0.90 | 26.0 |
| | 硬化剤 | 12 | | 0.95 | 26.5 |
| | 混合液 | — | | 0.91 | 26.1 |
| ※ 塗料性状に記載している数値は代表値を示すものであり、若干の変動があります。 | | | | | |
| 取扱上の注意 | 別紙及びSDSを参照してください。 | | | | |
| 塗装条件 | 雰囲気 | 温度5°C以上、湿度85%RH未満 | | | |
| | 混合比 | 主剤:硬化剤 = 12 : 3 | | | |
| | 希釈剤 | — | | | |
| | 塗装方法 | 刷毛、ローラー、エアレススプレー | | | |
| | エアレススプレー | 圧力(参考): | 5~10 Mpa | 50~100 | kg/cm ² |
| | 塗装条件 | | | | |
| 標準所要量 希釈量 | 塗装方法 | 所要量(kg/m ²) | | | 希釈率 |
| | | 理論 | 塗着効率 | 標準 | |
| | 刷毛・ローラー スプレー | 0.08 | 80% ~ 100% 60% ~ 80% | 0.08 ~ 0.10 0.10 ~ 0.14 | — — |
| ※ 上記標準所要量は、標準的な所要量であり、被塗物の形状・素地状態及び塗装方法により、差が生じます。 | | | | | |
| 標準膜厚 | 希釈率 | 標準膜厚(μm) | | — | 92 |
| | | 乾燥膜厚 | WET膜厚 | | |
| | | 20 | | | |
| ポットライフ 乾燥時間 塗装間隔 | | 23°C | | | |
| | ポットライフ | 24時間 | | | |
| | 指触乾燥 | 1.5時間 | | | |
| | 半硬化乾燥 | 2時間 | | | |
| | 硬化乾燥 | 2.5時間 | | | |
| | 塗装間隔 | 16時間以上7日以内 | | | |

※ 上記標準所要量は、標準的な所要量であり、被塗物の形状・素地状態及び塗装方法により、差が生じます。

| | | | | | |
|------|-----|----------|-------|---|----|
| 標準膜厚 | 希釈率 | 標準膜厚(μm) | | — | 92 |
| | | 乾燥膜厚 | WET膜厚 | | |
| | | 20 | | | |

| | | | | | |
|------------------------|--------|------------|--|--|--|
| ポットライフ 乾燥時間 塗装間隔 | | 23°C | | | |
| | ポットライフ | 24時間 | | | |
| | 指触乾燥 | 1.5時間 | | | |
| | 半硬化乾燥 | 2時間 | | | |
| | 硬化乾燥 | 2.5時間 | | | |
| | 塗装間隔 | 16時間以上7日以内 | | | |

※ ポットライフと乾燥時間は目安です。無希釈、一定の温度条件の恒温槽にて測定したものです。

※ 乾燥時間の測定方法は、JIS K 5600-1-1 4.3.5 によります。

※ 本書類の内容は、予告なく変更する場合があります。

制定: 2005年8月1日

改定: 2022年1月1日

取扱い上の注意事項

1. 取扱い方法及び保管

- ・主剤と硬化剤、及びシンナーは既定の割合で混合し、十分に攪拌してからご使用ください。
- ・被塗面の油脂、塵埃、水分などの付着物は除去してください。
- ・硬化剤は水分と反応しやすいため、開封後は出来るだけ早くご使用ください。
- ・火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・取扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
- ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気を吸込まないようにして下さい。
- ・取扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスク又は送気マスクを付け、更に頭巾、保護めがね、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋等を着用して下さい。
- ・容器からこぼれた場合には、ウエスで拭きとって、水をはった容器に保管して下さい。
- ・塗料あるいは溶剤等の付着したウエスや塗料カス、スプレーダスト等は廃棄するまでは、必ず水に漬けておいて下さい。
- ・取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行なって下さい。
- ・缶上部の取っ手は手下げ専用です。ロープやフック等を取っ手に取り付けてつり下げないで下さい。
- ・貯蔵中は容器を密閉し、直射日光や雨のあたらない、換気の良い一定の場所を定めて保管して下さい。
- ・部外者の出入りできないところで、かつ子供の手の届かないところに保管して下さい。

2. 救急処置

- ・皮膚や着衣に付着した場合は、水やせっけんで十分に洗い落とし、皮膚に痛みや外観の変化があるときは、医師の診察を受けて下さい。
- ・目に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ・蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- ・誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診察を受けて下さい。

3. 火災時の処置

- ・万一、火災が発生した場合には、炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いて下さい。

4. 廃棄

- ・廃材、材料の付着したウエス等は安全な方法で保管し、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ・容器は中身を使い切ってから、廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。

5. 誤使用

- ・本来の用途以外(シンナー遊び、汚れ落とし等)に使用しないで下さい。
- ・指定された以外の材料と混合しないで下さい。

6. 詳細情報

- ・詳細な情報が必要な時は、安全データシート(SDS)をご参照下さい。

7. 低温時に塗装する際の注意事項

| 想定される状態 | | 発生する不具合 | | 対策、注意点 |
|-----------|-----|---|--|--|
| 下塗が未硬化の場合 | | <ul style="list-style-type: none"> ・下塗り成分が移行(ブリード) ・ちぢみ(旧塗膜がある場合) ・上塗り塗膜との融合 | | <ul style="list-style-type: none"> ・下塗り塗膜が硬化状態にあることを確認する。 ・下塗り塗膜に外観異常がないか確認する。 |
| 硬化速度の低下 | | <ul style="list-style-type: none"> ・塗装後の結露や降雨による影響を受ける時間が長くなってしまう。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。 |
| 水分の混入 | 塗装前 | 結露 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗膜の膨れ、発泡、軟化。 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗装前に被塗面の状態を確認する。 |
| | 塗装後 | 結露 降雨 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗膜の膨れ、発泡、雨跡の形成、艶の低下、白化など。 | <ul style="list-style-type: none"> ・塗装後に気温の低下、降雨の恐れがある場合は、塗装しない。 |